「正解が出るまで考える力が大切」

ニトリ元理事・永島さん 多治見市で講演会



ニトリの成長を支えた「現場力」を語る永島寛之さん＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

東濃信用金庫（多治見市）の取引先経営者でつくる東信経済倶楽部の講演会が18日、同市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで開かれた。家具・日用品販売大手ニトリホールディングスの元理事・組織開発室長の永島寛之さんが「ニトリの現場力～〝お、ねだん以上。〟～を実現するために」と題して講演した。

永島さんは同社の強みとして「物流やＩＴなど難易度の高い業務を内製化し、付加価値をできるだけ内部にためていった独自の内製ビジネスモデルがある」と述べた。永島さんが携わった新卒採用でも「自社でリクルーター組織をつくってホームページなど多くを内製し、徐々に学生に人気が出ていった」と振り返り「自分たちの中にある正解が出るまで考える力を付けることが大切だ」と語った。

また「現場の力を高めるためには経験学習が最も重要だ」と強調した。６カ月ほどで完遂できるような業務を選び出して部署横断チームをつくったことなどを紹介し、集まった経営者らに「現場リーダーが機能できるような組織を目指してほしい」と呼びかけた。

同倶楽部の講演会は今回で４４９回目。約80人が聴講した。（稲木悠司）

無断複製・転載を禁じます